

-臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願い-

現在、循環器小児・成人先天性心疾患科では、本学で保管している診療後の診療情報等を使って、下記の研究課題を実施しています。

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の研究内容の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の診療情報等を「この研究課題に対しては利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、下欄の研究内容の問い合わせ担当者までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 肺高血圧を合併した先天性心疾患患者の不整脈発症と予後に関する研究

[研究対象者のうち、この情報公開文書の対象者]

2010年4月以降、2025年8月26日までの間に、当科でフォローされている先天性心疾患がありかつ肺高血圧症も合併されている患者さんが対象になります。

[利用している診療情報等の項目]

診療情報：診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、併存疾患名、身体所見、内服薬、手術歴、生存、徐脈性および頻拍性不整脈の種類

検査結果：血液検査、CT検査、心電図検査、ホルター心電図、ペースメーカー情報、心臓超音波検査、心臓MRI検査、心臓カテーテル検査、心臓電気生理学的検査、カテーテルアブレーション結果

[利用の目的] (遺伝子解析研究：無)

先天性心疾患には肺血流が増えること、心室の拡張が障害されること、肺の血管に血栓が詰まること、肺の病気や肝臓の病気などの様々な要因で肺の血圧が高くなる(肺高血圧と言います)を合併することがあります。肺高血圧症の存在は、心不全、不整脈、脳卒中、突然死や死亡などの予後に関わる重要な合併症と考えられています。生まれながらに先天性心疾患を持つ患者さんでは脈が遅くなる徐脈(洞不全症候群、房室ブロックなど)や脈が速くなる頻拍性不整脈(心房性と心室性頻拍性不整脈)がともに発生することがあり、これらの不整脈は心不全、突然死などの予後に大きく関与すると予想されます。しかしながら、先天性心疾患に肺高血圧を合併した方の不整脈の発生頻度、治療内容、予後については未だ十分な検討がなされていません。

本研究は、先天性心疾患を有し肺高血圧を合併した方の不整脈の発生頻度や予後を検討することを目的としています。

[研究実施期間] 承認日から西暦2030年2月28日までの間(予定)

[この研究での診療情報等の取扱い]

本学倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした診療情報等には氏名、生年月日等の情報を削り、個人が特定されることがないように加工をしたうえで取り扱っています。

[機関長、研究責任者、および、研究内容の問い合わせ担当者]

機関長：東京女子医科大学 理事長 清水 治

研究責任者：東京女子医科大学 循環器小児・成人先天性心疾患科 診療部長 稲井 慶

研究内容の問い合わせ担当者：東京女子医科大学 循環器小児・成人先天性心疾患科 竹内大二

電話：03-3353-8111 (応対可能時間：平日9時～16時)

